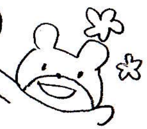
まずは一問一答！

共謀罪Q&A



共謀罪について、長野県の岡田和枝（おかだかずえ）ママ弁護士におしえてもらいました☆☆

（2017年3月15日「けんぽうカフェ」より）
うえだなないろの風主催

Q. 「テロ等準備罪＝共謀罪」って一体なんなの？
オリンピックのためのテロ対策なら必要じゃない？

A. 共謀罪とは、2人以上の人が犯罪の準備に関する相談をしている時点で警察が捜査をできることです。
ちなみに法案名の「テロ」の文字は、最初条文の原案には入っていませんでした。指摘を受けてあとから文に付け足しましたが、あきらかに条文と合っていません。
つまり、テロ対策のための法案というにはかなり無理があります。　そもそもテロ対策なら、日本はすでに国際連合条約のテロ関連条約に同意していて、十分な法整備はととのっています。

Q. でも、私たちは普通の市民で犯罪なんて犯すつもりはないんだから、関係なくない？

A. その人たちが「普通の市民」かどうかは警察が決めること。
過去にもいくつか、危険でない市民団体の人が警察にマークされたり個人情報を流出されたりという事例があります。
それが公然と行われるようになりますね。
「誰を捜査対象にするのか」は、警察の恣意（しい）的（てき）な判断。
だから、自分に関係ないって人は実はいないのです。

右へつづく

Q. じゃあ、どうやって事前に「共謀」をみつけるの？？

A. それはもちろん、普段から「怪しい人」も「普通の人」も、見張っていないと、誰が怪しいのか、何を話してるのか分からないですから、日常的に皆の電話やメール、LINEなどのSNSも監視しますね。

Q. じゃあもしかして、普段の生活で話をしてるなかでもそういう盗聴や、友達が仲間のふりしてまぎれこんだりとか、ある？？

ママ友とか…PTAとか…
私が入ってるヨガサークルとか…

A. それが問題視されているところです。
警察による歯止めのない捜査方法（監視、盗聴、囮（おとり）捜査）が懸念されています。また、共謀の証拠集めにスパイや密告が増えると仲間同士でもこの人が裏切るんじゃないか、あの人は実はスパイなんじゃないか、と疑心暗鬼になりそれが息苦しい自由のない社会を作りだしかねません。

Q. …冤罪（えんざい）とか、誤認逮捕とかもありうるよね…？

A. 当然ありえますね。逮捕されないまでも、事情聴取だけでも、
- たとえば職場に警察から連絡がくる。
- 家の前にパトカーがきて警察署へ同行を求められる。

それだけで逮捕されずに家へ帰れたとしても普通の生活はズタズタになります。
それに対するフォローは一切ありません。

ええっ
こわーい!!!

どうすればいいの？？
黙っていれば無事にすごせる？
でも…こんなきゅうくつな世の中で子どもたちが心配…。